

# 令和4年度 事業会計決算報告

**芦屋病院事業** 令和4年度は、入院患者数が54,063人と前年度より1,611人減少し、外来患者数は76,194人と前年度より1,752人増加しました。

非常に感染力の高いオミクロン株が流行した第7・8波の際に、院内クラスターの発生を防ぐため、一部病棟の新規入院一時停止など感染対策の徹底により入院患者数が減少しました。加えて、原油価格高騰の影響を受け材料費や光熱費等の増加により、病院の本業を示す営業損益は6億8,496万円のマイナスでした。しかし、国の新型コロナウイルス感染症関連補助金や、感染対策の徹底による収入減に対する市の資金手当7,500万円もあり、決算は、病院事業収益59億8,600万円、病院事業費用58億4,381万円で、1億4,219万円の純利益となりました。

新型コロナウイルス感染症対応では、院内の感染対策を徹底し、クラス

		令和4年度	令和3年度	増減
入院	延べ患者数	54,063人	55,674人	△1,611人
	一日平均患者数	148.1人	152.5人	△4.4人
	病床稼働率	74.4%	76.6%	△2.2%
外来	延べ患者数	76,194人	74,442人	1,752人
	一日平均患者数	313.6人	307.6人	6.0人
	診療日数	243日	242日	1日
病院事業収益		59億8,600万円	59億4,795万円	3,805万円
病院事業費用		58億4,381万円	57億6,949万円	7,432万円
純損益		1億4,219万円	1億7,846万円	△3,627万円
累積欠損金		115億8,387万円	117億2,606万円	△1億4,219万円

ターの発生を0件に抑えつつ、新型コロナウイルス感染症重点医療機関として入院患者を受け入れ、外来ではハイリスク者へのワクチン接種を継続し、インフルエンザとの同時流行に対応するため発熱外来を新設しました。

診療機能の充実では、緩和ケア内科・呼吸器外科・産婦人科において医師を増員するとともに精神科医師を新たに採用し、入院患者の精神科リエゾン診療(抑うつやせん妄等を有する患者の症状緩和)の充実を図りました。更に、作業療法士や臨床検査技師等の医療技術職を増員したほか、特定行為研修を修了した認知症看護認定看護師が新たに誕生するなど、医師のタスクシフト・タスクシェアを進めました。

チーム医療では、麻酔科医・看護師・臨床工学技士等で構成される術後疼痛管理チームを立ち上げ、術前からの痛みに対する不安や術後の苦痛を軽減し、質の高い疼痛管理を提供しました。

医療分野のICT化では、国が推進する電子処方箋の稼働開始日(令和5年1月26日)に運用を開始した全国6病院の一つとなりました。

そのほか、本年度は開院70周年であると同時に緩和ケア病棟開設10周年を迎えたことから、記念企画として講演会や音楽療法士等で構成する「グリーンケアを考える会」によるコンサートをオンライン形式で開催しました。



術後疼痛管理チーム

問い合わせ 芦屋病院 ☎31-2156



**水道事業** 令和4年度の給水人口は、93,368人で前年度より228人減少し、1人1日当たりの使用水量は、5ℓ減少し296ℓとなったため、料金収入となる有収水量は21万3,170m<sup>3</sup>(2.1%)減少して1,007万8,933m<sup>3</sup>になりました。

事業収益は、1億3,066万円(6.0%)減少して20億6,272万円となりました。事業費用は、1億851万円(5.7%)減少の17億9,990万円で、差引収支は2億6,282万円の純利益となりました。しかし、人口減少による収入の減少が予想される中、老朽管の更新工事などによる経費の増加が見込まれており、水道事業を取り巻く経営環境は、厳しい状況です。事業面では、災害に強い水道を目指して、低区配水池耐震補強工事や配水管の改良をすすめました。これからも、持続的に安心・安全な「おいしい水」の安定供給に努めていきます。



低区配水池耐震補強工事

	令和4年度	令和3年度	増減
給水人口	93,368人	93,596人	△228人
総配水量※1	10,187,729m <sup>3</sup>	10,398,100m <sup>3</sup>	△210,371m <sup>3</sup>
自己水量※2	906,269m <sup>3</sup>	1,038,120m <sup>3</sup>	△131,851m <sup>3</sup>
阪水受水量※3	9,281,460m <sup>3</sup>	9,359,980m <sup>3</sup>	△78,520m <sup>3</sup>
有収水量※4	10,078,933m <sup>3</sup>	10,292,103m <sup>3</sup>	△213,170m <sup>3</sup>
有収率※5	98.93%	98.98%	△0.05%
水道事業収益	20億6,272万円	21億9,338万円	△1億3,066万円
水道事業費用	17億9,990万円	19億841万円	△1億851万円
純損益	2億6,282万円	2億8,497万円	△2,215万円

※1 1年間に芦屋市内へ配水した水の量  
 ※2 芦屋市の浄水場でつくられた水の量  
 ※3 阪神水道企業団から供給された水の量  
 ※4 総配水量のうち料金徴収の対象となった水の量  
 ※5 総配水量に占める有収水量の割合



問い合わせ 水道管理課 ☎38-2080

**下水道事業** 令和4年度の事業収益は28億2,542万円、事業費用は23億5,787万円で4億6,755万円の純利益となりました。前年度よりも8,404万円減少しましたが、平成30年度の企業会計移行後は継続して黒字を確保できています。

事業面においては、管路やマンホール蓋の点検や老朽管の改築工事に加え、浸水対策として精道中学校に雨水貯留槽を整備しました。芦屋下水処理場では雨水ポンプの更新や自動除塵機の整備を行いました。大東ポンプ場では無停電電源装置の更新を行うなど施設の機能保全を図りました。令和4年度決算では黒字は確保できているものの、老朽化した管路は年々増え続けており、更新が必要な処理施設も増加していることから、今後は経費の増加が見込まれています。ストックマネジメント計画を活用し、延命化を図りながら、適切な維持管理や計画的な設備更新を行い、将来にわたり安定した経営に努めるとともに、安心して快適に暮らせる下水道事業の運営を目指していきます。



No.3雨水ポンプ設備更新工事

	令和4年度	令和3年度	増減
処理区域内人口	94,921人	95,149人	△228人
汚水処理量	14,725,161m <sup>3</sup>	17,580,772m <sup>3</sup>	△2,855,611m <sup>3</sup>
有収水量※1	10,475,872m <sup>3</sup>	10,667,899m <sup>3</sup>	△192,027m <sup>3</sup>
経費回収率※2	110.96%	122.49%	△11.53%
汚水処理原価※3	82.00円/m <sup>3</sup>	74.25円/m <sup>3</sup>	7.75円/m <sup>3</sup>
下水道事業収益	28億2,542万円	29億810万円	△1億628万円
下水道事業費用	23億5,787万円	23億5,651万円	136万円
純損益	4億6,755万円	5億5,159万円	△8,404万円

※1 下水道使用料徴収の対象となる水量  
 ※2 下水道使用料/汚水処理費×100  
 ※3 汚水処理費/有収水量×100



問い合わせ 下水道課 ☎38-2064